

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を全職員で見直し、利用者の方々が地域の中でその人らしく安心した暮らしができるような内容の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員でつくった理念に基づき、日々取り組みを行っている。毎朝のミーティングの際に連絡帳や日誌、個人の申し送りノートを活用しながら利用者に向き合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の会合や行事、町内会等に参加するなかで、事業所の情報を伝えたり交流を深め、地域とのつながりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員間で見直し、随時意見交換を行いながら、すべての事において早めの気づきができるよう前向きに取り組むようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで運営推進会議を行い、意見集約や情報交換を行っている。		運営推進会議を取り入れてからまだ日が浅いので、今後意見等が出た時は十分に話し合いを行いながらサービス向上につなげていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所と電話やFAX等を通して情報交換を行うなど、積極的に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方の面会の際に、利用者の方の様子を伝えたり、家族からの要望を聞いたりしている。遠方の家族に対してはFAXなどを利用して連絡をとっている。関連施設を含めた月1回の広報紙を配布している。	○	葉書を利用して個人の様子を担当スタッフが家族に報告したり、活動写真や次月度の行事等を入れ込んだ簡単な事業所独自の瓦版も検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、第三者委員会を開催し、地域の民生委員2人の方に家族等からの苦情報告や要望・その対応等について伝え、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に関しては、職員が利用者の方々にきちんと説明し納得をしていただき、不安を抱かないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等に関しては、職員が順番に参加できるように考慮している。研修報告については勉強会の時間を作り、全職員が共通情報を習得できるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を中心に同業者と交流を図っている。また、地域内のグループホーム同士で職員が交換実習を行うなどして、そこで得た経験を現場支援に生かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の方については、事前に職員が出向き、顔合わせを行っている。その後、ホームの見学や体験をしていただく事でホームの雰囲気になじんでもらい、家族の協力を仰ぎながら、ご本人に納得していただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と同じ目線に立ち、協働感覚を保ちながら炊事や掃除などの日常生活場面でアドバイスをしたり、逆にされたりしながら関係構築に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の場所やメニュー選択、入浴の時間帯など利用者の希望に合わせて動ける体制になっている。		利用者それぞれの生活歴も利用して、思いや意向を察していただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者1人に対して6人の職員がそれぞれに個別援助計画を立て、それを管理者がまとめていくという流れで気づき等を共有し、介護計画を作成している。		管理者と職員で話し合える時間を工夫してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと状態の変化に応じた対応がなされている。特に健康面においては、2名の看護師が協力医や家族と連携をとりながら現状に即した計画を立て対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望を聞き取りながら、状況によっては移送サービスや墓参りや通院などの外出支援を家族に代わって行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医、掛かりつけ医のどちらに対しても、利用者の状況を看護師が細かに記録・報告を行っている事で安心できる支援が進められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、終末期の対応については文書で家族に説明を行っている。医療的な措置が必要な場合は、そちらを優先していただく事になるが、一応ターミナルケアに関しては対応できる体制にはなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについての研修(勉強会)を年1回実施することで、職員の意識向上を図りながら、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々人のペースを尊重し、日課の流れに乗れない時は無理強いせずに職員間で連携をとりながら、柔軟なケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスによる食事と自炊を織り交ぜながら、利用者と共に調理や配膳・後片付けなどを行い、職員も同じテーブルで同じ料理を楽しんでいる。栄養士を含めた給食会議も実施して、食事上の気付きを伝達している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴であるが、希望に合わせて午前、午後に一人ずつゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否の方については、タイミングを見ながらできるだけ入浴する方向で誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日に2回のレクリエーションは職員主導で行っている。裁縫や歌、掃除（片付け）、草花いじりなど個々の楽しみに関しては、場面や時間を設定して、自主的に動けるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩以外にも、近所のスーパーに買い物に行ったり、近場のドライブを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のみ、やむを得ず鍵を掛けている。利用者及び家族の方々には説明を行い、承諾は得ている。居室や共同スペースから庭への出入りは自由である。	○	利用者の状況を見ながら、ドアベルをつけて様子を見たり、気持ちを玄関から逸らす物を置いたり、食事時間・入浴時間の時だけ鍵をしない場面を作ってみるなど、いろんな事を試していただきたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルが作成されており、災害を想定した訓練を毎月行っている。地域の消防団に協力はお願いしているところである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量の記録が毎日確実になされており、状態把握はできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはなじみの家具が置いてあり、リビングのいすやソファなどは使い勝手の良いものが準備されていて、利用者もくつろいでおられる。天井が高く圧迫感も無い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や身の回り品が置かれ、どの部屋も個性のある居室になっている。		

※  は、重点項目。